

# 明治村 だより

夏号 Vol. 40

● 目次

明治村の40年 飯田喜四郎 .....2  
 明治村グラフィティ Part 2 .....4  
 夏の明治村一催しものご案内 .....6  
 明治の家具 .....6  
 A La Meiji-mura .....7

明治村建物一覧

1日 1番地～13番地

- 1 第八高等学校正門
- 2 大井牛肉店
- 3 三重県尋常師範学校蔵持小学校
- 4 近衛局本部付属倉
- 5 赤坂離宮正門哨舎
- 6 聖ヨハネ教会堂(重要文化財)
- 7 学習院長官舎
- 8 西郷従道邸(重要文化財)
- 9 森鷗外夏目漱石住宅
- 10 東京盲学校車寄
- 11 二重橋飾電燈
- 12 鉄道局新橋工場  
明治天皇昭憲皇太后御料車  
(鉄道記念物)
- 13 三重県庁舎(重要文化財)

2日 14番地～23番地

- 14 千早赤阪小学校講堂
- 15 第四高等学校物理化学教室
- 16 東山梨郡役所(重要文化財)
- 17 清水医院
- 18 東松家住宅(重要文化財)
- 19 京都市中井酒造
- 20 安田銀行会津支店
- 21 札幌電話交換局(重要文化財)
- 22 蒸気自動車(鉄道記念物)
- 23 京都七條巡査派出所

3日 24番地～33番地

- 24 京都市電
- 25 北里研究所本館(医学館)
- 26 幸田露伴住宅「蝸牛庵」
- 27 西園寺公望別邸「坐漁荘」
- 28 茶室「亦楽庵」
- 29 品川燈台(重要文化財)
- 30 菅島燈台附属官舎(重要文化財)
- 31 長崎居留地二十五番館
- 32 神戸山手西洋人住居
- 33 宗教大学車寄

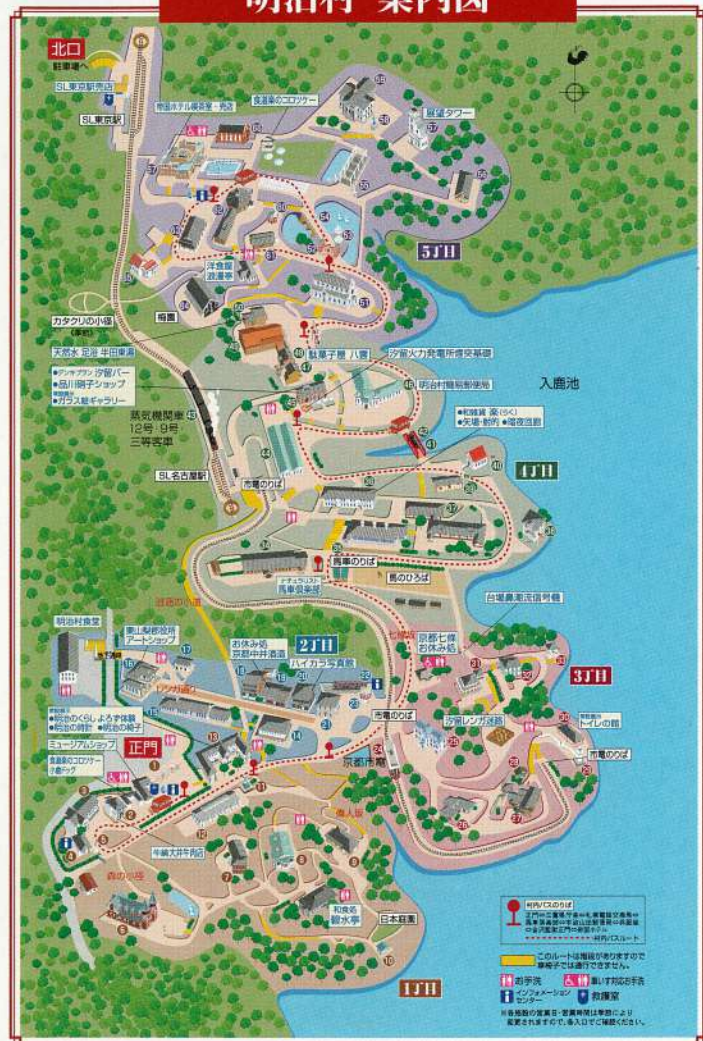
4日 34番地～50番地

- 34 第四高等学校武術道場「無声堂」
- 35 日本赤十字社中央病院病棟
- 36 歩兵第六聯隊兵舎
- 37 名古屋衛戍病院(重要文化財)
- 38 シアトル日系福音教会
- 39 フラミル移民住宅
- 40 ハワイ移民集会所
- 41 六郷川鉄橋
- 42 尾西鉄道蒸気機関車1号
- 43 蒸気機関車12号・9号・三等客車
- 44 鉄道新橋工場(機械館)  
リング精紡機(重要文化財)  
菊花御紋章付平削盤  
(重要文化財)
- 45 工部省品川硝子製造所
- 46 宇治山田郵便局(重要文化財)
- 47 本郷喜之床
- 48 小泉八雲避暑の家
- 49 呉服座(重要文化財)
- 50 半田東湯

5日 51番地～67番地

- 51 聖ザビエル天主堂
- 52 金沢監獄正門
- 53 小那沙美島燈台
- 54 天童眼鏡橋
- 55 隅田川新大橋
- 56 大明寺聖パウロ教会堂
- 57 川崎銀行本店
- 58 皇居正門石橋飾電燈
- 59 内閣文庫
- 60 東京駅警備巡査派出所
- 61 前橋監獄雑居房
- 62 金沢監獄中央看守所監房
- 63 宮津裁判所法廷
- 64 菊の世酒蔵
- 65 高田小照写真館
- 66 名鉄倉変電所(岩倉ホール)
- 67 帝国ホテル中央玄関  
(ポーツマス条約調印テーブル)

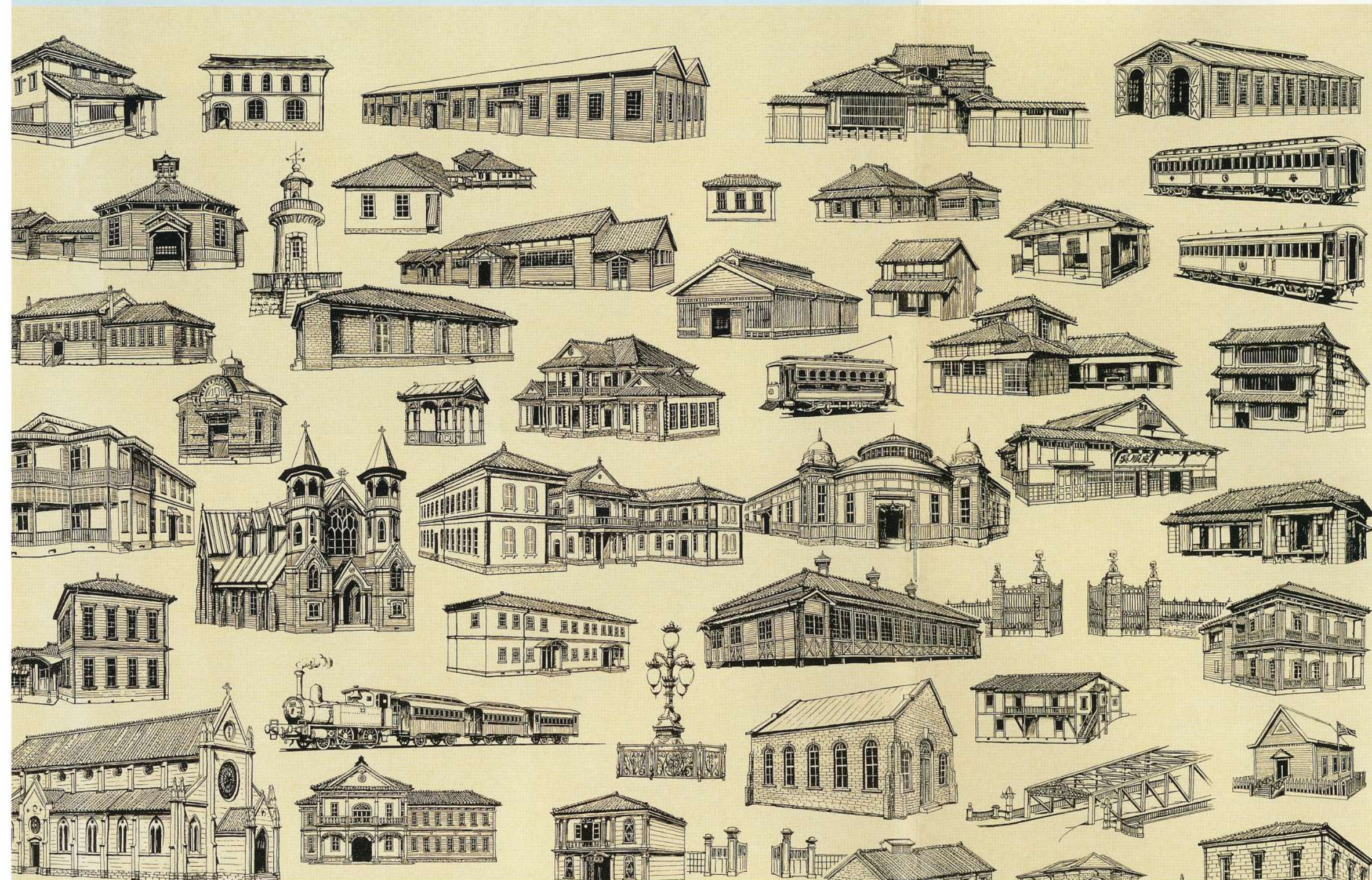
明治村 案内図



平成17年7月10日発行  
 「明治村だより」第40号(平成17年夏)  
 発行 博物館明治村 〒484-0000 愛知県犬山市内山一番地  
 電話 (0568) 67-0314  
 ◎ホームページ <http://www.meijimura.com>  
 製作 大日本印刷株式会社

「明治村だより」第41号発行のお知らせ  
 発行時期 平成17年9月(予定)  
 申込方法 「明治村だより」第41号ご希望の旨及びご住所・お名前を明記の上、送料140円の切手とともに封書にてお申し込み下さい。

表紙 「10年目を迎えました」ポスター



# 明治村の四十年



明治村は本年三月に開村四十周年を迎え、延べ4000万名以上の方に来訪して戴きました。明治時代は開国・幕府倒壊という国家存亡の危機を乗り越えて新政府を樹立し、欧米の文物・制度を進んで摂取、同化して近代日本の基礎を築いた時代です。明治村は建造物を中心にして当時の文物を保存・展示し、明治の人々の進取の気概と不屈の精神を伝える役割を担っています。私たちは来訪される皆様、山あいの小さな湖を思わせる入鹿池を望む丘陵地に点在する近代の建造物を観賞され、静穏な美しい緑の環境に包まれて明日の活力を養って戴けるように明治村を整備し維持したいと願っています。

明治村は昭和三十年（一九五五）代の高度経済成長期にはじまった公私の都市再開発事業により、破壊され消滅する近代の建造物を救済するため、建築家谷口吉郎博士（東京工業大学教授）が高等学校以



明治村全景

来の親友・土川元夫氏（名古屋鉄道株式会社副社長―いづれも当時）の理解と協力をうけて開設した博物館です。

谷口先生は太平洋戦争に突入する一年前の昭和十五年（一九四〇）に、東京・日比谷にある現在の帝國ホテルの南側に明治十六年（一八三三）に建設された鹿鳴館を取り壊されるのを目撃しました。鹿鳴館は幕末に欧米諸国との間に締結した不平等条約の改正を促進する目的で、政府がイギリス人建築家コ

ンドルに設計させた社交クラブです。日本の指導的階層と欧米の在日有力者との交流をはかり、わが国の欧化を誇示するための施設でした。コンドルは政府が招いた少壮気鋭の建築家で、その求めに応じて公共建築や官舎・邸宅を設計すると共に、わが国に西欧の本格的な建築教育を導入した恩人です。

鹿鳴館はこのような建物でしたから、谷口先生は当時の資料を集めて展示する博物館として後世のために残すべきであった、と新聞誌上で訴えられました。すでに日中戦争は泥沼に踏み込み、世間は軍国主義・国粹主義一色に染められていました。中国に好意的なイギリス・アメリカに対する反感が吹き募っていた当時の状況を思うとき、コンドル設計の鹿鳴館の保存を訴えた谷口先生の信念と勇氣には、ただただ頭が下がるばかりです。

近代を象徴する建造物は地震や火災や台風などの自然災害や改築のような人為的破壊によるほかに、太平洋戦争末期の無差別爆撃で大量に破壊されました。辛うじて消滅を免れた建造物は、高度経済成長に再び破壊の危機に見舞われました。

高い価値をもつ古い建造物のような文化財を保護する法律は、わが国でも明治時代に制定されており、戦後はさらに整備・充実されて昭和二十五年（一九五〇）に文化財保護法として施行されました。重要文化財として法的保護をうけていた建物は当時全国に一〇五七件ありましたが、近代建築はわずか二件でした。法的保護をうける建物はその価値を学術的

に裏付けられていなければなりません。近代建築の本格的な研究は、ごく少数の先駆者によって一九五〇年頃に着手されたばかりでした。

その研究成果に基づいて一九六〇年頃から近代建築は毎年二―三件づつ重要文化財に指定され始めました。しかし前述のように一九五五年頃から始まった再開発による近代建築の破壊は、各地ですさまじい勢いで進んでおり、年二―三件のペースでは代表的な近代建築の救済はとて望めません。この閉塞状況を打開する端緒を開いたのが博物館明治村です。

建造物は土地に固定した施設ですから、土地の用途や所有者が変わるなどいろいろな理由で、元の場所に存続できない事態が起ります。そこで谷口先生



初代館長 谷口吉郎氏

は取り壊しを迫られた建造物を安全な場所に移築して救済する方法をとりま



二代館長 関野 克氏

した。



三代館長 村松貞次郎氏

明治村による救済を期待して全国から破壊に直面した建造物の情報が寄せられました。そのうち特に重要と判定された建造物を選んで移築工事を開始し、十四件を再建した昭和四十年（一九六五）三

月に開村しました。明治村の救済活動により近代建築の価値は広く認識され、各地で保存が検討されるようになりました。

他方、近代建築の調査研究も全国で活発に行われ、その成果をうけて重要文化財としての指定も増加し、現在では指定建造物三八七件のうち、近代建築は三四四件に達しました。明治村開村当時はそれぞれ二―四四件と十七件ですから、近代建築の指定件数は四十年で二十倍になったわけです。明治村の建造物も十五件から六十三件に増加しました。そのうち十件は重要文化財、一件は愛知県指定文化財、残る五十二件は有形文化財として国に登録されており、そのほかに工作機械と紡績機械各一台が重要文化財に指定されています。

伝統的な技術と材料で作られた近代の建造物の解体・移築には、現代の材料と技術で同じ規模の建造物を作る工事費の数倍の費用が必要です。敷地造成から始まり、電気・上下水道・道路などの幹線工事を含む移築工事費は莫大な金額になります。幸い明治村の救済事業は広く共感を呼び、初年度にすでに約八十万名の入館者を迎え、三年目には百万名を越え、明治百年に当る昭和四十三年（一九六八）には約百六十万名に達しました。

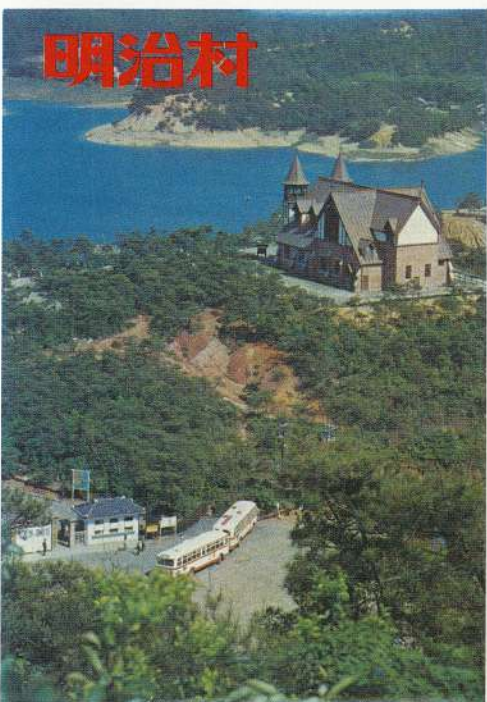
開村三年目に迎えた百万名の大台は、ディズニランドを始めとする大規模なレジャー施設の新設や博覧会などの開催にも拘らず、バブル経済が破綻する平成三年（一九九一）まで維持されたので、この間の入場料収入で多数の建造物を救済できました。

バブル破綻後は前年度比で約一〇％に近い急激な入館者の減少が十年間近くも続き、破綻以前の平均年間入館者数の三分の一以下に

なりました。博物館の最大の支出は人件費ですが、入館者減少に応じてその削減に努めました。削減の影響は幸い九十名近いヴォランティアの方々のおかげによって補われており、広い敷地内に点在する建造物への案内や熱心な説明は、入館者の皆様に大変喜ばれています。

バブル破綻以前に解体材が搬入されていた京都の中井酒造と長崎の大明寺聖パウロ教会堂は、それぞれ平成四年、六年に再建されました。平成七年の阪神・淡路大震災で被災した西宮の芝川邸は、解体材が明治村に保管されています。入館者の減少に歯止めがかかったので、震災十年を迎えた本年から再建に着手しました。投入できる資金量が小さいので、建築専門のヴォランティアの方々の協力をうけながら、二―三年の長い工期で再建する予定です。

国と地方公共団体による保護措置の拡充により、近代建築はかなり保存・活用されるようになりましたが、それでもまだ明治村へ移築の可能性が打診されてきます。既存の建造物や資料を維持保存し、整理しながら、今後も移築により文化財建造物を救済したいと考えています。



開村当初の絵ハガキ

博物館明治村館長 飯田喜四郎

### 明治村ヒストリー

●昭和45年（1970）  
 3月 新正門（第八高等学校正門）開門。  
 神戸山手西洋人住宅、工部省品川硝子製造所、第四高等学校武術道場「無声堂」移築公開。  
 5月 東京盲学校車寄 移築公開。

●昭和46年（1971）  
 3月 西園寺公望別邸「坐漁荘」、茶室「亦楽庵」、小泉八雲避暑の家、呉服座、前橋監獄雑居房 移築公開。  
 宇治山田郵便局内に明治村簡易郵便局開設。  
 8月 明治村初代村長 徳川夢声氏逝去。

●昭和47年（1972）  
 3月 幸田露伴住宅「蝸牛庵」、東京駅警備巡查派出所、金沢監獄中央看守所・監房 移築公開。

●昭和48年（1973）  
 3月 三重県尋常師範学校・蔵持小学校、清水医院、聖ザビエル天主堂 移築公開。  
 6月 入場者数1000万人突破。

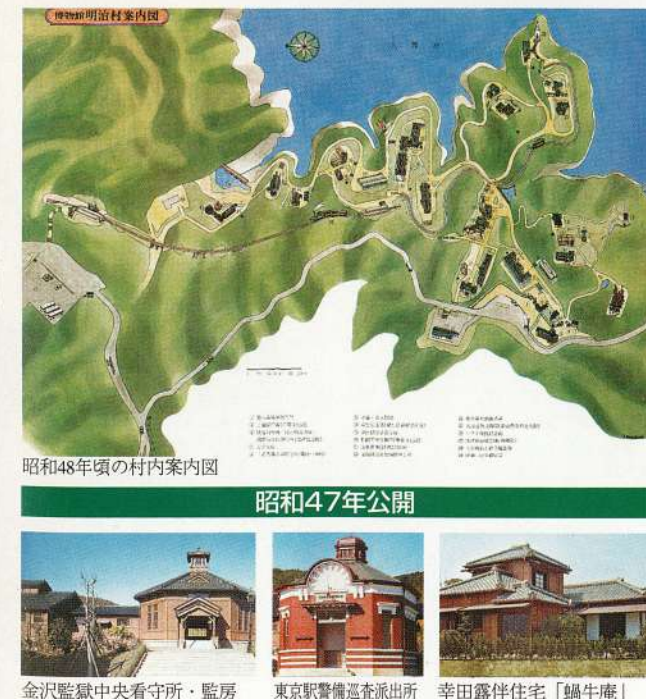
●昭和49年（1974）  
 1月 明治村創始者の一人である土川元夫氏逝去。  
 3月 日本赤十字社中央病院病棟 移築公開。  
 明治村蒸気機関車開通。

●昭和50年（1975）  
 3月 プラジル移民住宅、隅田川新大橋、名鉄岩倉変電所 移築公開。

●昭和51年（1976）  
 3月 千早赤阪小学校講堂、天童眼鏡橋、小那沙美島燈台、帝国ホテル中央玄関（外装のみ）移築公開。

●昭和52年（1977）  
 3月 近衛局本部付属舎、金沢監獄正門、宮津裁判所法廷 移築公開。  
 三重県庁舎正門 解体保存。

●昭和54年（1979）  
 2月 明治村創立者の一人である谷口吉郎館長逝去。  
 5月 昭和天皇、皇后両陛下下行幸啓。  
 6月 新館長に関野克氏就任。  
 11月 皇太子妃殿下（当時）、紀宮清子内親王殿下行啓。



# A La Meiji-mura

ルナの死後、一九三三年にはローマ法王庁により彼女が聖女に列せられ、記念日は彼女が亡くなった四月一日とされました。ペルナデッタが掘った奇跡の泉は、現在に至るまで枯れる事もなく多くの人たちの心と体を癒し続けています。また彼女の遺体はヌベール(Nevers)の修道院の聖地に、生前と変わらぬ姿で安置され信仰の対象とされています。



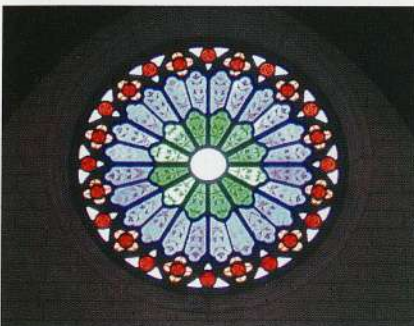
大正寺聖パウロ教会堂内陣横のルルドの洞窟



ルルドの洞窟マリア像

## ルルドの洞窟

大明寺パウロ教会堂(〒1自56番地)の中に「ルルドの洞窟」があります。ルルドとはフランス南部のピレネー山脈麓の町名です。この町で一八五八年(安政五年)二月十一日、当時十四歳の貧しい粉屋の娘ベルナデッタ・スピル(Soubirous Bernadette)が、妹と薪を拾いに出かけたところ、マサビエル岩と呼ばれる洞窟の前で突然聖母マリアが出現され、「私は原罪なくして生まれた者です」と名乗られ、「罪人の為に祈りなさい」と言われました。その年の七月十六日まで合計十八回も出現され、そのしるしとして多くの奇跡が起きました。また聖母が出現された洞窟の指示された場所を掘ると水が湧き出し、その水を飲むと重病の患者が奇跡的に治りました。これが「ルルドの聖水」といわれるもので、全ての人の病氣回復につながる訳ではありませんが、精神的治癒とでも言った方がいいのか霊的な恵みに満たされて感謝と喜びでいっぱいになるのは事実でした。入念な調査の後、一八六二年にローマ法王庁がこのルルドで起こった奇跡を公認したことを機に、聖母マリアが出現されたマサビエル岩を模した「ルルドの洞窟」が世界各地の教会堂に造られるようになりました。



聖ザビエル天主堂のバラ窓

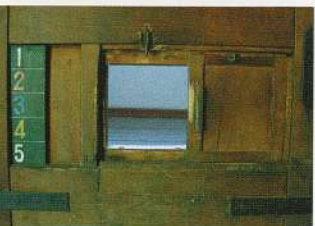
昔から神は光であると言われていました。天井にあるバラ窓から降り注ぐ光は、まさに普く人々を照らす一条の希望の光であり、祈りを捧げる度にバラは花咲き、聖母マリアの慈愛に包まれます。

## 咲き誇るRose window

聖ザビエル天主堂(〒1自56番地)の堂内に足を踏み入れて背後を振り返ると、直径三・六メートル極彩色に輝くバラ窓(Rose window)があります。このバラ窓は木製の枠で出来ており、色ガラスに白ペンキで草花文様が描かれています。このペンキの風化を防ぐ為、色ガラスの外側にも一枚の透明ガラスを重ね、二重ガラスの構造になっています。ひととき大きな円形は、開いたバラの花弁を思わせるところから「バラ窓」と呼ばれていますが、放射状に伸びた十二本の線は、キリスト教を広めるため方々に散らばった十二使徒を象徴しています。また、キリスト教において赤いバラは殉教者の血を象徴し、白いバラは聖母マリアの純潔のシンボルを表していることから、しばしば教会堂内の文様に用いられました。さて、ステンドグラスは印刷技術が発達する頃、信者に聖書の教を視覚的に唱えるものとして用いられ、その起源は十二世紀中頃から十五世紀に発展したフランスのゴシック様式にさかのぼります。それまでのロマネスク様式に代わって、都市を中心にいくつもの尖塔を持つ大聖堂の建築が相次ぎました。尖塔アーチを交差させることで、天井の重量は柱に分散され、より高く、広い空間が出現しました。天井を支える必要性がなくなった壁は開放され、大きな窓がとられ、ステンドグラスがはめ込まれました。これにより堂内は神の世界を彷彿とさせる神秘的な光で満たされるようになったのです。



金沢監獄監房(独居房)の扉



扉の食事出し入れ口

## 番号で区分けされた食事

明治四十年(一九〇七)に石川県金沢市に建てられた金沢監獄。明治村には正門(〒1自56番地)と中央看守所・監房(〒1自56番地)が移築されています。この洋式監房の中には独居房が整然と並び、その扉の下部には食事を出し入れするための小窓と、1-5までの番号がついた黒板が取り付けられています。実はこの番号は囚人たちの主食の量を表すもので、マスに印をつけ看守たちはそれを目印に食事を配っていたのです。

江戸時代から明治時代初めまでは、統一した規則がなく、刑の重さや性別によりそれぞれの食事が定められていました。全国的に法が制定されたのは明治五年の「監獄則並図式」からです。ここでは刑の重さによって食事が決められていましたが、明治十四年の「改正監獄則」以降は、監獄内での労働量を基準とするようになりました。重労働者は七合、軽労働者は五合、労働をしていないものと満十歳以上の未決者は四合、十歳未満の子供は三合というように決められ、さらに白米と麦の割合を四対六と定めていました。昭和二十四年に定められた「収容食料給与規定」では一等食三・〇〇〇、二等食二・七〇〇、三等食二・四〇〇、四等食二・〇〇〇、五等食一・八〇〇calと、五段階に分けられていることから、明治村に移築された扉の番号は、この時のものと考えられます。

さて、近年この主食を入れていた器が金沢市の金沢監獄跡地から発掘されました。その中には「監」というマークが入ったどんぶりの器と、対となるような蓋が出土しました。明治三六年の司法省監獄訓令ではその食器用途別の大きさと使い方も定められており、その中でどんぶりの蓋にはおかずをのせるように注釈がつけられています。監房の扉の食事口は縦十六・五×横十八・〇cmと小さいので、ご飯どんぶりを先に配り、後から蓋に入れたおかずを配った、と考えられます。いつ出られるかもしれない監獄の中で、囚人達は小さな窓から差し出される食事を楽しみしていたことでしょう。

## 宵の明治村

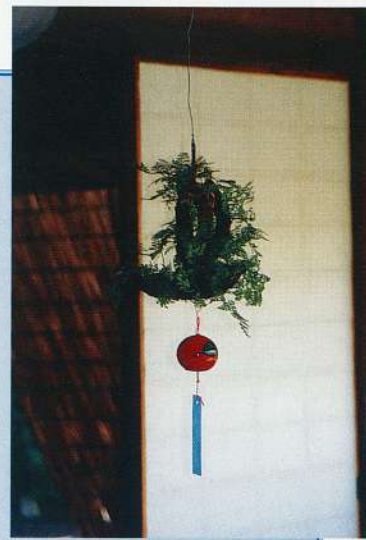
8月6日(土)~14日(日)  
期間中は夜9時まで開館

浴衣の女性は終日入村無料、男性は割引料金で入村していただけます。

### 幻想的な夜の明治村

#### ライトアップ明治村「2005夏」

明治の建物と街並、電飾された京都市電やボンネットバスが、宵の村内を美しく彩ります。  
帝国ホテル中央玄関・内閣文庫・川崎銀行本店・隅田川新大橋・菊の世酒蔵・宇治山田郵便局・工部省品川硝子製造所ほか



#### 9DAYSナイトコンサート

プロの演奏家による日替わりポップス・コンサートです。  
18:00~18:45~ 岩倉ホール

#### 涼を愉しむ〈明治の夏の暮らしを再現〉

水の音、光の反射、そよ風に鳴るつり忍の風鈴、日差しを遮り柔らかな風を通す草蓆、縁側。涼しく過ごすために知恵をだし、工夫をこらした明治の生活空間を再現します。

森鷗外・夏目漱石住宅 東松家住宅 幸田露伴住宅「蝸牛庵」ほか

#### ミスト 明治の涼霧

涼しい爽やかな涼霧で夏の暑さを忘れましょう。  
帝国ホテル中央玄関前 森鷗外・夏目漱石住宅前 札幌電話交換局横

※催事は都合により変更する場合がありますので、詳細については事前にお問合せ下さい。

## 愛知万博 開催記念 百年前\*体験博

開催期間2005年11月27日(日)まで

### 百年前の「乗り物」体験

明治天皇、昭憲皇太后「御料車」  
内部特別公開〈鉄道局新橋工場〉

明治43年製造の明治天皇御料車(鉄道記念物)と明治35年製造の昭憲皇太后御料車(鉄道記念物)の内部を期間中特別公開します。

内外装は漆塗りで、内部は彫刻・螺鈿・七宝など当時の最高水準の工芸で装飾されています。



明治天皇御料車内部

### 百年前の「生活」体験

百年前の「立体写真館」〈千早赤阪小学校講堂〉

1900年前後の日本や世界の風景、生活、産業などをテーマごとに分けて立体写真で紹介しています。明治日本の名所や風俗の世界を旅してみてください。

明治のくらしよろず体験〈三重県庁舎〉

桶かつき、ろうそく・ランプの明るさ体験など百年前のくらしを体感していただけます。

立体眼鏡と立体写真



## 明治の家具

### 明治宮殿で使用された椅子

この椅子は一人掛けの椅子3脚とともに明治宮殿で使用されたもので、平成15年度に椅子張りの布地を復元し、同16年度に張り替えを行いました。龍文を織り込んだ布地は光線の加減により、落ち着いた変化を見せてくれます。西郷従道邸2階に展示されていますので、蘇った椅子を是非ご覧下さい。(西郷従道邸2階は建物ガイドでのみの公開となります。お時間を確認ください。)



布地復元に使用された糸

